



宇宙より高い？あまよう祭の舞台

想像してみてください。地球の大きさを直径30cmとします。ちょうど一般的な地球儀くらいの大きさです。その地球の表面から国際宇宙ステーションは、どのくらい離れていると思いますか？ 国際宇宙ステーションは、実際には上空400kmの宇宙空間にあります。地球の直径が1万2700kmなので、それを30cmまで縮小するならば、400kmは約1cmということになります。つまり地球儀から約1cmだけ離れた所に国際宇宙ステーションは存在しているのです。思いの外、低いと思いませんか？

国際宇宙ステーションはすぐに行って帰ってこれる場所にありそうですが、月となるとそうはいきません。地球から月までの距離は38万km。秒速11kmの宇宙船アポロ11号が地球を出発してから月に到着するまでに、4日と6時間もの時間がかかっています。ちなみに時速300kmの新幹線だと53日、時速80kmの車だと6ヶ月、歩いていくと11年もかかります(※月まで歩いていくことはできません)。月よりもはるかに遠い火星に行こうと思ったら、最新のロケットでも数ヶ月か数年はかかるでしょう。宇宙旅行には興味があっても、行くだけでそれだけの時間を費やすとなると非現実的ですよ。

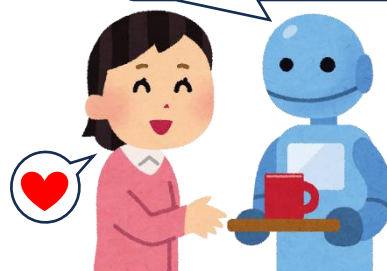
私が考える未来の宇宙旅行は、分身ロボットの活用です。脳や体に装着した機器で、火星などに置いているロボットを遠隔操作して、地球にいながらにしてまるで宇宙にいるかのような感覚を味わうのです。脳や体が完璧に宇宙に行ったように感じる事ができれば、実際の体験として思い出にも残るでしょう。ロケットに乗って宇宙に行くリスクを考えると、こちらの方が現実的ではないでしょうか。

アルス・エレクトロニカ・フェスティバルというメディア・アートの祭典があります。オーストリアのリンツ市を拠点とする電子音楽の祭典なのですが、そこに東京から参加している日本人がいます。その方はALS(筋萎縮性側索硬化症)患者でほとんど自分で体を動かすことはできませんが、体に装着したセンサーで手足等の筋肉から出る信号を読み取り、遠隔でアバターを操ってDJパフォーマンスを披露しています。この方はそれ以外にも、ロボット研究者の協力を得て、脳波とAIの技術を使い、ロボットアームを動かす試みをしています。お気に入りの服を着せたアームを操作し、幼い我が子に手を伸ばしたり、おもちゃのガラガラを振ったりする様子がドキュメンタリー番組で放映されていました。

同じくそのロボット研究者が運営している「分身ロボットカフェ」というのがあります。カフェにいるロボットを自宅などから遠隔操作して、「外出できないけど働きたい」という方が接客などの仕事をする取り組みです。本校高等部の生徒も10月に、この分身ロボットカフェで接客の実習を行いました。

さて11月はいよいよあまよう祭です。これは分身ロボットではなく生身の体で舞台上がって、直接、目の前のお客さんに学習の成果を披露してほしい行事です。あまようの体育館の舞台は高さ的には低いです。本番直前の緊張している子どもたちにとっては、宇宙ステーションよりも高く感じているかも知れません。子どもに限らず、人前で何かをしようと思うと誰でも緊張しますよね。ある高校生が講演会で講師をされた方に質問しました。「人前で話す時に緊張してしまうのですが、どうしたらいいですか？」その講師の方はこう回答しました。「緊張しなくなったら、この仕事を辞めると思えます。緊張感がないと相手に失礼だ」緊張のあまよう祭はもうすぐ！

ボ、ボクト イッショニ
アマヨウサイニ イキマセンカ



この想い 分身ロボなら 言えるかな

(校長 河合 康一)

☆あまよう祭について

舞台発表

	10時～	10時50分～	13時20分～
11月18日(月)	小学部 低学年	中学部	
11月19日(火)	小学部 中学年	小学部 高学年	PTA
11月21日(木)	高等部 1・2年		高等部 3年

○場 所 体育館

○その他 学年・学部を超えての保護者鑑賞が可能です。

作品展示

○期 間 11月18日(月)～22日(金)

○時 間 9時30分～14時30分

○場 所 1階 多目的室



☆学校間交流について

宝塚市立養護学校(高等部)

11月26日(火)にバス・タクシーで宝塚市立養護学校に行き、宝塚の高等部の生徒と交流をしてきます。お互いに出し物を披露したり、記念品を交換したり、写真撮影をしたりします。昼食(弁当)も宝塚で食べます。

市内中学校(中学部)

11月28日(木)に、中央中学校・日新中学校の生徒と交流をします。あまようの体育館で実施します。

☆お知らせ

* 転校生について

10月7日より尼崎市内の小学校から本校の小学部中学年へ児童が1名転入してきました。

* 教職員について

介助員は今年度24名でスタートしましたが、11月より奥山さんが着任され、25名体制になります。

* 作品展示について

あまよう祭の期間(11月18～22日)に児童・生徒の作品展示を行います。合わせて本校の学校開放職員の山下審也さんの作品も展示します。山下さんは美術団体「一水会」の委員をされており、今年度行われた第85回一水会展において文部科学大臣賞を受賞されました。受賞された作品は、他の入賞作品と合わせて、11月12日(火)～17日(日)に京都市京セラ美術館にて展示されます。あまよう祭では山下さんがご自宅に保管されている作品を展示する予定です。お楽しみに…。